

平成26年度 島根県立松江東高等学校 学校評価表

評価計画				自己評価		学校関係者評価		次年度への改善策
重点目標	具体的目標(評価項目)	目標達成のための方策	評価指標	評価	取組状況と課題	評価	意見	
人とつながって生きる力を向上させる	1 互いの人権を尊重し、互いに高め合う態度を育成する。(心の通った切磋琢磨)	人権・同和教育に関するLHRや講演会の充実を図る。	生徒の感想文。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。	A	LHRや講演会は生徒の人権意識を高めるものとなった。今年度実施した教員研修を生かし、アンケートQUをさらに有効に活用していく。	A	・ネット上のトラブルが多く発生しているため、チェック機能をしっかり働かせてほしい。 ・部活動に熱心に取り組んでいることはよくわかるが、今後、部活動の成績を維持していくためには、顧問が継続して指導する体制をとることが重要なので考慮してほしい。	アンケートQUの分析やいじめアンケートに関する情報の共有をこまめに行い、問題の未然防止や早期発見に努める。
	2 部活動、生徒会活動など課外活動への積極的参加を推進する。	部活動紹介を実施して入部を呼びかける。また、活動の状況や成果を積極的に発信する。	部活動加入状況。情報発信の状況。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	A	部活動や生徒会活動に積極的に取り組み、充実感を感じている生徒が多い。今後も部活動加入率の促進を図っていく。	A		東雲祭の各企画について、一層の充実を図る。また、部活動紹介や情報提供の仕方を工夫し、部活動への積極的な参加を促す。
	3 教育相談、特別支援体制を充実させる。	スクールカウンセラーを効果的に活用する。また、生徒支援委員会を機能させる。	対象生徒の状況。スクールカウンセラーの活用状況。	A	対象生徒の状況に応じて、関係教員とスクールカウンセラーが連携して対応した。教員の専門性を引き続き向上させていく。	A	・子どもたちの声に耳を傾けて対応することが大切である。	スクールカウンセラーとの連携をさらに密にし、効果的活用を図る。また、教員の専門性向上のために校内研修を実施する。
自己の未来を切り拓いていく力を向上させる	4 自ら学ぶ態度を育成し、主体的学習者を育成する。	授業改善に努め、学びのモチベーションを高める工夫や考える授業を推進する。また、ETC(東高基礎力養成テスト)を効果的に実施する。	授業アンケートの結果。学習時間調査の結果。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。	B	考える授業の実践に取り組み、授業改善に努めた。基礎学力と家庭学習の定着のために、ETCを効果的に活用する必要がある。	B	・志といえるような大きな視点がなく、先のビジョンが見えていないため、主体的に学習に取り組めないのではないか。	主体的な学習に結びつく授業改善をめざす。また、ETCについては、到達目標を明示するなど、効果的な実施方法を検討する。
	5 東高版キャリア教育(生き方、働き方)を推進する。	地域、企業、大学等と連携し、生徒が生き方、働き方を体験的に学習できる機会を設定する。	キャリア教育に関わる諸活動の事後アンケートの結果。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	B	外部機関との連携を密にし、内容の充実を図った。取り組んでいることを整理し、3年間のキャリア教育の体系化を図る必要がある。	B	・大学生など少し年上の先輩と話す機会があると、自分の将来を現実的に考えることができるのではないかと。 ・自分の生き方を考えるうえで、インターンシップは有効である。	生徒が自分のライフプランを考えるうえで役だったと実感できるように、研修旅行を含めたキャリア教育全体の体系化を図る。
	6 授業力、教師力向上に向けた取組(研修)を推進する。	公開授業・授業研究や授業アンケートを実施し、授業改善を図る。また、校外研修に積極的に参加する。	公開授業及び授業研究の実施状況・参観状況。授業アンケートの結果。校外研修への参加状況。	A	公開授業週間に各教科で研究授業を実施し、授業改善について考える契機とした。今後も中高連携による授業参観の機会を増やしていく。	A	・授業改善の視点を明確にして、具体的な取組を進めていくことが大切である。	本時のねらいを明確に示すことにより、生徒が見通しをもって学習に取り組み、達成感を得ることができる授業実践を心がける。
	7 個人面談の充実と気軽な声掛けを実施する。(丁寧に向き合う親身になった指導)	個人面談を繰り返し行ったり、平素からこまめに声掛けをしたりして、生徒の思いを受け止め、適切に対応する。	個人面談・保護者面談の実施状況。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。	A	個人面談や平素の声掛けなどを通して生徒の思いを受け止めるように心がけた。何でも気軽に話せるような関係づくりを継続する。	A	・学力向上のためには、中学校と連携することが必要である。	定期的な実施する生徒面談や保護者面談がより効果的なものとなるよう、実施時期や時間について検討する。
地域社会の未来と関わる力を育成する	8 地域社会へ明るい話題を提供する。	学校だよりやホームページを通して、学校行事や部活動の状況を積極的に発信する。	学校だよりの発刊状況。ホームページの更新状況や閲覧状況。保護者アンケートの評価。	A	新たに発刊した学校だより「EAST NEWS」やホームページなどを通して情報発信に努めた。生徒・保護者・地域への周知を図っていく。	A	・ホームページが十分に生かされていないのが残念である。改善を図ってほしい。 ・「EAST NEWS」を町内会などで回覧するようにすれば、東高の活動が地域の人たちにさらに理解してもらえるようになるのではないかと。 ・ボランティア活動に参加しておとなと関わることが、子どもたちを成長させることにつながる。	学校だよりやホームページで積極的に情報発信を行い、それを生徒・保護者・地域に対して、様々な機会をとらえて周知する。
	9 地域社会への理解と貢献意欲の向上を図る。	東高版キャリア教育や体験活動・ボランティア活動を推進する。	キャリア教育に関わる諸活動の事後アンケートの結果。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	A	地元企業への訪問を通して地域社会への理解を深めることができた。生徒が地域のボランティア活動に参加する機会を拡大していく。	A		キャリア教育の中に地域社会への理解を明確に位置づけ、地域貢献の意識が高まるよう、内容の充実を図る。
	10 生徒の意識の中に「地域化」を図る。	挨拶の励行や校歌をしっかりと歌うことなどを通して、地域や学校の一員であるという意識を育てる。	生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。	B	明るく気持ちの良い挨拶は、来校者からも高く評価された。諸活動を通して、地域や学校の一員であるという意識をさらに高めさせる必要がある。	B		地域や学校の一員であるという意識を育てるために、学校行事を見直したり、体験活動を実施したりすることを検討する。

※【評価】 A・・・大変良い B・・・良い C・・・あまり良くない D・・・良くない